



2023.4.18

## Euroluca 2023 特別展

Interior Night. Bright Artifacts(インテリアナイト ブライト・アーティファクト)

キュレーション:Michele Calzavara(ミケーレ・カルツァヴァーラ)

展示デザイン: Berfu Bengisu Gören(ベルフ・ベンギス・ゴーレン)

4月18日～23日、ホール15

人工光を主役とした**室内建築のイメージ展示**。空間を特別な方法で創造的に変化する中で、照明や光源を認識するための数字、アクセント、閃光、リズム、点、ベクトル、時には光の「気まぐれ」によって構成される展示です。

この展覧会は、**歴史でも年代でもなく、照明技術の基準**(サービスとしての光と、情報や意味の伝達手段としての光の間で、後者に重点が置かれている)**でもなく**、解釈の鍵やカテゴリーによって順序付けられ、大小のケーススタディ集として、**デザインソリューションのファミリー、特定のディテール、実際の発明**を見ることができるようになっています。

照明の詩学、言語、態度の小さな、網羅的でない目録を再集計することを念頭に、偉大な巨匠から若いデザイナーまで、記憶に根ざした歴史的アイコンから忘れ去られたイメージまで、小さな「接木」から**建築的規模の真の発明**に至るまで、数十枚の写真のセレクションと的確なコメントを添えて**光の芸術**を紹介します。

「建築展の特徴は、建築物そのものが見せられないため、何か代わる存在が必要になります。そして光の場合、写真が最も適しているもののひとつです。しかし、『Interior Night (インテリアナイト)』展は、厳密には写真展でなく、光り輝く直感が驚きや喜びを与え、今もなお私たちにアイデアを与えてくれるインテリアで、モダンとコンテンポラリーデザインを彩るイメージを巡る小旅行です」と、**ミケーレ・カルツァヴァーラ氏**はコメントしています。

### 展示コンセプト

この展覧会のデザインは、**色彩と発光特性**に特に注目した珍しい素材の選択と、**展示スペースとワークショップや商談**に特化したスペースという、2つの並行した機能の共存を管理しなければならぬ建築構成によって特徴づけられています。この二面性は、2つの通路によって対応され、**強い幾何学的な特徴**を持つプランで解釈され、各パーツ間の相互関係と自律性を同時に証明するボリュームを備えています。

**展示ルート**は、空間を**段階的に**体験できるように設計されており、層状に連続するストーリーを生き生きと表現しています。**展示されている写真は**、異なるフォーマット、異なる支持体

上にあり、キュレーターの世界を貫く線として、共通の地平線上で展開するいくつかのビジュアルクラスターにグループ化されています。ある種の無形の指示書のように、これらの視覚的構成は、物語のカテゴリーを構成するさまざまなケーススタディ間の関係を強調し、異なる展示方法で視覚化しています。長大な壁面、水平面、光り輝く表面は、弾力的なリズムを持ち、さまざまなレベルの結実をもたらす道筋を知らせています。

ルートの最後は、オープンな多目的スペースでありながら、親密な空間でもあるワークショップスペースで、各分野の専門家から人工光のテーマについてさらなる洞察を得ることができると。

「インсталレーションを考えることは、ある意味、照明器具をデザインすることに似ています。その主な目的は「光を作る」ことであり、その無形の本質を具体化することであると同時に、光を分配し、ファセットし、フィルターをかけ、透過させ、変化させることを可能にすることです。この場合、光は展覧会の主題でもあります。イメージのための光は、その表現が毎回呼び起こされるために、さまざまな工夫を必要とします」と、ベルフ・ベンギス・ゴーレン氏はコメントします。

#### MICHELE CALZAVARA (ミケーレ・カルツァヴァーラ)

1966 年生まれ。建築家、パブリシストとして、デザイン、教育、評論、キュレーターの分野で活躍する。哲学と建築の関係についての論文でミラノ工科大学を卒業し、コラード・レーヴィに師事する。ジャック・デリダ、カルロ・シーニ、スタジオ・アズーロとともに芸術と哲学のワークショップ「Thinking Art」に参加。ヴェネチアのペギー・グッゲンハイム・コレクション、ミラノ・トリエンナーレ、ジェノヴァのヴィラ・クロッチェ現代美術館、ミラノのアーバン・センターなどで展示を行っている。L'Architettura cronache e storia, Domus, Abitare (現在共同制作) など複数の業界誌に執筆し、国内外の出版社から出版。主なキュレーターとして、2010 年第 12 回ヴェネチア建築ビエンナーレ「Ailati(アイラティ)」展の「Laboratorio Italia(ラボラトリオ・イタリア)」部門(共同キュレーター)、2016 年ミラノトリエンナーレの「Anni Luce(アンニ・ルーチェ)」展がある。2017 年より NABA, Nuova Accademia di Belle Arti の講師を務め、2010 年より Inventario (XXIII Compasso d'Oro, 2014) の編集長を務める。ミラノに在住。

#### BERFU BENGISU GOREN (ベルフ・ベンギス・ゴーレン)

建築家、インテリアデザイナー、ミラノ在住。1990 年にアンカラで生まれ、イタリアの文化、言語、歴史への情熱から 22 歳の時にイタリアに移住。アンカラの METU、ボローニャ大学、そしてミラノ工科大学で学び、「Syntax, Form in Architecture」と題した論文で卒業した後、学際的かつ国際的な教育を受ける。様々な建築スタジオとコラボレーションを行いながら、ブント・アデルチ自然保護区でのサイトスペシフィック作品「Attraverso Metamorfosi」や、ミラノのポルディ・ペッツォーリ美術館での「Il Gioiello Italiano del XX Secolo」展の設営など個人プロジェクトを進めている。コミュニケーションや人間的な経験を生み出す手段として、空間の形式的な構成が持つ可能性を強く信じている。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it